

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 相原尚之

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

講義では獣医師として必要な獣医病理学に関する知識、技術を講義し、実習では講義で学んだ病変や疾患を実際の組織や病理解剖で経験させることで、獣医学における重要な疾患をトータルとして理解できるような教育を行う。研究室においては、専門ゼミや卒業論文の作成を通じて研究の計画立案と遂行、データ解析と考察を行う能力を伸ばし、それを的確にまとめ、発表する機会を設ける。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医学特論1	獣医学科	必修	5	8
獣医学特論2	獣医学科	必修	6	10
産業動物アドバンス実習	獣医学科	自由	6	3
産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5	128
獣医病理学各論1	獣医学科	必修	3	148
獣医病理学各論2	獣医学科	必修	4	138
獣医病理学実習1	獣医学科	必修	4	148
獣医病理学実習2	獣医学科	必修	4	139
獣医病理学総論	獣医学科	必修	3	149
総合獣医学	獣医学科	必修	6	141
卒業論文	獣医学科	必修	6	7
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	4
獣医病理学特論	獣医学専攻		1	1
獣医病理学特別演習Ⅰ	獣医学専攻		1	1
獣医病理学特別実験Ⅰ	獣医学専攻		1	1
獣医病理学特別演習Ⅱ	獣医学専攻		2	1
獣医病理学特別実験Ⅱ	獣医学専攻		2	1
獣医病理学特別実験Ⅳ	獣医学専攻		4	2

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

講義・実習では、獣医師として必要な獣医病理学の知識・技術を持つことに加え、それを応用して自ら考え診断する実践能力を持った獣医師を養成することを理念とする。関連する分野の知識も動員して病理診断につなげる思考と、それを自分の言葉で説明できる能力を養成したい。

研究室では、自然発症例の病理診断や卒業論文研究を通じて、技術の習得に加えて、研究計画の立案、計画的な遂行、データの解析、考察を主体的に行う能力を持った人材を養成することを理念とする。また、結果に基づきディスカッションする能力、専門的な内容を平明に説明するためのプレゼンテーション能力を養う機会を提供したい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

・実習では、少人数毎に疾患罹患豚及び鶏の病理解剖を実施する機会を設ける。その動物の肉眼所見、組織所見、病原体検査結果を総合して病性鑑定を行う機会を設けることで、獣医師としての実践能力を養成することを目標としている。

・実習の病理組織標本の観察では、スケッチと写真を組み合わせることにより、診断のポイントとなる所見を抜き出し、説明できるようになることを目標としている。

・講義では、1, 2年次で受講する獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学、獣医生理学、獣医生化学の知識を基にして、細胞・組織の異常の病理学的な特徴や病態生理を体系的に理解することを目標としている。症例に応用できる実践的知識が得られる講義を心掛けている。

・研究室では、病理診断や卒業論文について、進捗管理、計画立案を、主体性、自律性をもって実施することにより、問題解決能力を養うことを目標としている。

・卒業論文では、計画や結果について自らの考えを説明すること、教員とのディスカッション、研究室での進捗報告会、学会での発表を通じて、課題発展能力とコミュニケーション・プレゼンテーション能力を養うことを目標としている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

・実習では、少人数毎に疾患罹患豚及び鶏の病理解剖、病理組織検査を実施する機会を設けている。獣医伝染病学実習と連携して病原体検査結果も提示し、総合的な病性鑑定の機会を作った。

・実習・講義では、動画ファイルに常時アクセスできるようにした。講義ごとに小テストを行い、理解度を把握した。

・研究室では、研究の進捗報告会、英語論文抄読会、他大学との合同病理セミナー、学会への参加により、ディスカッション、プレゼンテーションの機会を設けた。

(2) ICTの教育活用

有

- ・講義・実習においては、自主学習のため常時講義ファイルを視聴できるようにした。理解度を把握するため、Google フォームで小テストを実施した。
- ・実習では、タブレット、スマートフォンを利用して、病理組織標本の写真を撮影し、スケッチと対応させて、理解を深める取り組みを実施した。
- ・実習では、病理解剖法について、動画、VR教材を作成し、実際に解剖することが難しかった犬・猫の解剖手技について学習する機会を設けた。
- ・実習・研究室では、病理組織標本のバーチャルスライドを利用して、オンラインでの病理診断のトレーニングを行った。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

学生授業評価において、病理学実習では病理組織標本の写真を取りたいとの希望が多く寄せられた。これを反映させ、スマートフォンでの組織写真の写真撮影を取り入れるなどの改善を行っており、その後の授業評価でよい評価を受けた。また、実習中に病理解剖を実施することが困難であった犬・猫の病理解剖手技について、動画、VR教材を作成、活用した。

(2) 学生の理解度の把握

A

理解度を把握するため、講義ごとに小テストを実施した。正解率の低い問題について次回講義時に解説し、理解不足を補う工夫を行った。また、鏡検試験を実施し、個人ごとの理解度を把握した。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

講義資料をできるだけ早く掲示すること、病理解剖手順などの予習用資料を掲示することで、自学自習のための教材を提供した。これらは復習用に常時閲覧可能とした。バーチャルスライドをクラウドに掲載し、いつでも観察して復習できるようにした。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

質問対応の時間を実習中に設定した。また、教員、ティーティングアシスタントが教室内を巡回し声をかけることで、質問しやすい環境を整備した。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義、実習中に積極的に質問する学生は限られており、全学生との双方向性にはまだ課題がある。スケッチを定期的にチェックし、定期的に学生の理解度を確認して質問を投げかけるようにした。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

各項目の冒頭で、関連する国家試験の問題を紹介し、その項目のどこを重点的に理解すべきかを明示した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

質問対応に時間を取ることにについて好意的な評価が多かったため、より質問しやすいように観察する学生の中を巡回するように心がけた。バーチャルスライドが理解の向上に役立つという意見が多かったため、より多くの標本をバーチャルスライド化して提供した。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

バーチャルスライドをクラウドからいつでも閲覧できるように整備した。バーチャルスライドで撮影した画像で質問をする学生もいたため、復習に活用されていることが確認できた。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

解剖手技の動画やバーチャルスライドにいつでもアクセスできる体制を整え、事前学習、復習により理解度の向上をサポートする体制を整備したい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

オンデマンド用に作成した授業動画は、復習用として受講期間中は常時閲覧可能とする。獣医病理学実習については、クラウド上で閲覧できるバーチャルスライドをより充実させる予定である。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

- ・ 獣医病理学実習の改善の取り組みは、教育改善プログラムに採択された。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

すべてのFD研修に参加した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

短期的には、講義、実習の双方向性を高めるように努めたい。

長期的には、専門家としての実践能力を持つ人材を育成するため、知識や技術の習得に加えて、課題発展能力・問題解決能力を伸ばす教育に貢献したい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

シラバス

授業評価アンケート